

函南町立西小学校

令和3年度

前期 学校評価号

夢や希望をもち
ともに未来を拓く
西っ子



【学校教育目標】 夢や希望をもち ともに未来を拓く 心豊かな子どもの育成

学校評価アンケートへご協力いただきありがとうございました

学校評価集計

令和3年7月実施



※評価について AとBの百分率の合計が90%以上→◎、80%以上→○、60%以上→△、60%未満→×

評価項目	職員 評価	児童 評価	保護者 評価	総合 評価
児童は、仲間の良さを見つけ認めることができた。	◎	◎	○	◎
児童は、学校に来るのを楽しみにしている。	◎	◎	◎	◎
児童は、めあてに向かって努力することが多かった。	◎	○	○	◎
児童は言葉で自分の気持ちや考えを伝えることができる。	○	△	△	△
児童は話しをじっくりと聞くことができる。	○	◎	△	○
児童は漢字や計算などの基礎的な学力がついた。	○	◎	○	○
児童は家庭学習が習慣化されている。	◎	◎	○	◎
児童は時間を見つけ自ら読書をしている。	○	△	×	△
児童は授業に楽しく参加できている。	◎	◎	◎	◎
児童は朝運動や外遊びをしている。	◎	○	○	○
児童は進んであいさつができる	○	○	△	○
児童は社会や学校のきまりを守って生活している。	◎	◎	◎	◎
児童は場に応じた言葉づかいができる。	△	◎	△	△
児童は相手の立場などを考え思いやりのある行動ができる。	◎	◎	○	◎
子どもの悩みや相談に対して、理解して指導している。	◎	△	◎	○
児童は時間を守って生活できている。	◎	◎	△	○
児童は黙って時間いっぱい掃除ができた。	△	○		
児童は身の回りの整理整頓を心がけている。	○	○	×	△
児童は基本的な生活習慣(早起き・早寝・朝ご飯)が定着している。	○	○	○	○
児童は遅刻・欠席をせず登校している。	○	◎	◎	◎
児童は給食や食育指導により、好き嫌いをせずに残さず食べる。	△	○	△	△
児童は自分に任された仕事や役割に一生懸命取り組んでいる。	◎	○	◎	◎
児童は学級の仕事など進んで働く。	◎	◎	△	○
児童は誰とでも仲良く行動できる。	◎	○	○	○
教育方針や子どもの様子を保護者に分かりやすく伝えている。	◎		◎	◎
読み聞かせやクラブなどで外部講師を招くなど地域に開かれた学校になっている。	◎		◎	◎
学校は安全安心な学校作りを推進している。	◎		◎	◎

学習に関すること

子供自身は、基礎学力が身につけていると肯定的に捉えています。また、授業に前向きに参加しているとしている子供が多くいます。一方、保護者は家庭内における子供の学びに対する姿勢があまり良くないと捉えている傾向が見られます。保護者面談・家庭との連絡等を通じて、家庭での過ごし方について共通理解を図り、学校・家庭が同じ歩調で子供とかかわっていきましょう。

コロナ禍にある現在、学校ではタブレット端末(chromebook)を活用した授業を行っています。これからもICT機器を活用し「主体的・対話的で深い学び」となる授業ができるよう、教員は研修を積み、授業に生かしていきます。

学校生活に関すること

子供は、「言葉遣いに気をつける」や給食において「残さず食べる」ことを意識していると自己を評価する割合が高いですが、保護者・教師は「言葉遣い」「残さず食べる」の設問に対してあまり高い評価をしておらず、子供との間に認識のずれがあります。

言葉遣いについては教師が手本となる言葉遣いをすること、保護者の皆様も躰の一つとして(将来、社会人となったときの常識を身に付けさせるために)家庭でも意識していただくことが必要です。

教師については授業中の「さん」づけ、「です・ます」を使った言葉掛けを今以上に意識して行い、同時に子供への指導もしていきます。

次に、「残さず食べる」についてですが、「食べさせる指導」より「なぜ食べる必要があるのか？」や「食べる楽しみ」など、「食」について子供自身に考えさせることもしていきます。

仲間づくりに関すること

保護者・教員ともに、子供は「任されたことを一生懸命行っている」と認めている傾向にあります。また、日々の生活の中で、子供も日直・当番・係活動・委員会活動などを前向きに捉え行っています。

「誰とでも仲良くできる」については、8割の子供が肯定的な回答をしています。友達との関係で苦労していることもあるようです。学校では「あのねタイム(教育相談)」を定期的に設けています。今後も子供の心に寄り添う支援をしています。また、「Q・U検査」(学校生活における児童生徒の満足感や意欲、学級集団の 状態等を質問紙によって測定するもので、児童生徒理解を補い、児童生徒や学級の状態の客観的・多面的な理解に活用でき、いじめや不登校、学級の荒れ等の未然防止に役立てるもの)を実施しており、これを活用して人間関係や学級の雰囲気に関心がないか具体的に聞き取り、子供を支援しています。

～ 前期学校評価について「西小学校運営協議委員会」での意見 ～

(評価全般について)

・保護者や教師は子供への期待が大きいため、厳しい評価になりがちではないだろうか。それは悪いことではないが、「これくらいできるだろう・やってもらいたい・できるでしょう？」という期待があるように感じる。

・先生方の理想があつての結果だと思ふ。

(子供へのかかわり)

・学校を見学していて、先生方は、「あのねタイム」などを活用して子供に親身にかかわっている。特に低学年児童で情緒が不安定になっている子に対して、先生が丁寧に係わっている姿をみて感心した。

・「あのねタイム」が重要になってくる。子供の気持ちを引き出し、子供が悩みを抱え込むことがないように、今後も継続していくとよい。

(学習について)

・子供が自分の考えをもち、伝える事ができるようになるとよい。

・(学習だけではなく)人材バンクを活用できるとよい。西小には「キッズ・サポーターズの人材バンク」があるのがよい。町でも充実できるとよい。

(新型コロナウイルス感染症に関すること)

・理解がないと差別や偏見が生じる。感染症になってしまったとしても、今や当たり前のものと皆が認識を持てば偏見はなくなるのでは。また、ワクチン接種については個人の判断であることを尊重したい。(メディアの取り上げ方も気になる)